

ヤマビル 人里で急増

シカ、イノシシが運ぶ 山の荒廃原因

人や野生動物の血を吸うヤマビルが、山奥から人里に生息域を広げている。山から下りてくるシカやイノシシにくっついて運ばれていくとみられ、人里での被害例が増えている。夏に動きが活発になるため、農作業や山歩きの際には注意が必要だ。

(高梨忍)

九州・沖縄にも被害拡大

「山奥にいたはずのヤマビルがなせ」。大分県国東市の男性(56)は昨夏、同県佐伯市の別荘で庭掃除をしていたところ、足の血を吸われ、驚いたという。すぐにつまんで取ったが、「血が止まるまで時間がかり、不安になった」と話す。

霧島連山のふもと、宮崎県高原町に住む男性(72)も、自宅近くの火口湖周辺を散歩す

人里で生息域を拡大しているヤマビル(ヤマビル研究会提供)



ヤマビル ミミズやゴカイの仲間。体長約1.5センチ。赤褐色で背に黒い縦線がある。吸血する際に、痛みを感じるまじさせ、血液の凝固を抑える物質「ヒルシン」を出す。

吸血防ぐために

もし吸われたら

スポン 裾 靴下の中に すぐにはがし 殺処分

山歩きを楽しむ人も多い季節。ヤマビル研究会の谷重和代表(67)＝写真＝に聞いた。



知らぬ間に足元からはい上がってくるので、体を衣類でしっかり覆うことが大切です。厚手の靴下をはき、ズボンの裾を靴下の中に入れて、上半身に入らないようにします。

塩を嫌うため、濃度20%以上の食塩水を含ませた布を足首に巻いておく方法もあります。アウトドア用品店などには専用の忌避剤が売っているので、それを靴や衣類に

農作業、山歩きに注意

塗っておくのもお勧めです。山歩きで休憩する時は、湿気のある場所を避けましょう。

血を吸われた時は、すぐにヤマビルをはがします。指や石で刺激したり、水をかけたりするとはがれやすくなります。傷口を指でつまんでヤマビルの体液を絞り出し、水で洗い流します。加えて、かゆみを止める抗ヒスタミン剤軟膏を塗り、絆創膏を貼っておけば万全です。

他の人が被害にあわないよう、ヤマビルを見たらその場で殺処分しましょう。塩をかけるか、ライターで焼くか、石でつぶします。靴で踏んだぐらいでは死にません。湿気のこもりそうな場所があったら、落ち葉かきや草刈りをして日当たりや風通しを良くすると、寄りつきません。

るたびに吸い付かれた。「ここ数年で急に増えた。外に出るのが怖い」と。

研究会が1999年から行

千葉県習志野市の民間団体「ヤマビル研究会」にはここ15年ほど、山奥以外での被害情報が寄せられるようになった。出没する場所は、山のふもとの民家周辺や農地、里山、観光地の遊歩道など。落ち葉や石の下、浅い土中など温った場所について、畑仕事や墓参り、登山などの人を狙う。

っている全国調査では、東北や関東、関西が中心だったが、ここ数年は九州や沖縄でも被害が広がっている。血を吸われても命にかかわることはないと言われるが、見た目の気持ち悪さや、血がなかなか止まらない恐怖感など、精神的なダメージは大きい。

生息域が拡大している原因